

活動名：2016 夏 波崎遠征 SUPER COPA U-12

日程：平成28年7月16日（土）～18日（月）2泊3日

会場：茨城県神栖市波崎新梅原グランド

参加：T6Aクラス 12名

帯同：設楽・貝和コーチ

結果：第7位/13チーム

報告：設楽

我がクラブの夏休み前の恒例行事となりました「波崎遠征」として茨城県神栖市波崎に行ってきました。今年は常葉カップと日程が重なり、T6クラスは2チームに分かれて、波崎はT6Aの12名が参加しました。この大会は東京ベルディの下部組織である千葉のウイングスさん、ラルクベールさん、花園さんが主催するフェスティバルで千葉県、埼玉県などの関東の強豪チームが参加する大会です。福島県のチームとの交流が多い中、年に1回の関東四一チームとの交流は子どもたちや指導者にとっても貴重な勉強になる機会です。

行程は朝5時半出発で約5時間をかけて貸切バスで会場に向かい、二日間の予選リーグ、最終日には順位決定戦を行い主催者が準備していただいた宿舎に他チームと共に宿泊する三日間の遠征です。5年生以下、6年生以下のチームがそれぞれの会場で戦いました。毎年この遠征を楽しみにしておりますが、この三日間は朝から夕方まで試合づくしで、子どもたちも試合以外は他に考える暇もないような時間であつという間に過ぎてしまう充実した行程です。

さて、今年の出来事や私の感想についてT6Aクラスの子を中心に以下についてまとめて報告いたしますので、保護者の方々から離れてどのような三日間だったのかをご覧くださいければと思います。

○貸切バスの移動中の子どもたちのことについて

- ・朝早くからの集合で長い道のり、そして昼の12時からの試合であったこともあり、乗車してから8時までは目を閉じてゆっくりすることと伝えましたが、乗車してすぐに寝ている子やはしゃいでいる子それぞれでした。
- ・8時を過ぎてサンドウィッチとおにぎりの朝食をとりましたが、足りないとのことからコンビニに寄ってパンを購入しました。そして、DVDの映画鑑賞でリラックスしました。
- ・会場についてバスの中に試合の忘れ物をする子がいなかったので今年は良かったです。
- ・T5クラスは会場までの道が狭くて大型バスが入れず、15分程度あるいて会場へ向かいましたので大変でした。



○試合中の子どもたちのことについて

・試合の戦い方について、以下のテーマを子どもたちに伝えてプレーしてもらいました。

\*それぞれの子どもの今回はオフェンス中心の形を伝えチャレンジしてもらいました。

例えば・・・R・Sくんの右サイドからのオーバーラップによるシュートの形

S・Mくんの中盤から迷わずミドルシュートを打つ形

T・Kくんのシュートレンジに入った時の早めのシュートの形 など

このような得点の形をイメージしてもらいチャレンジさせたことで、自分たちの得点の形を作ってもらおうと思いました。そんなことから随時、得点はこのような形から奪うことができたので良かったです。

\*毎日1試合目の気持ちの入り方が悪く、エンジンがかからないで後手後手の試合内容になってしまう子どもたちをアップで気持ちを高めたり、コーチングで高めたりとても苦労しました。気持ちが乗れば良いプレーが続出するのですが子どもたちの性格もあり困ったものです。

\*試合中に相手の球回しに振り回され「ボールウォッチャー」に多々なっていたので、常に試合中は「予測する」ことをコーチングしました。徐々にこの三日間で「予測

する」ことができるようになり、相手のボールを奪うことや相手より早く動くことができるようになってきました。

- \*このクラスには自分が GK (キーパー) をやりたいと言ってくれる子がいないので、毎試合お願いしながら GK に入ってもらいました。従って、経験も練習もしたことがない子たちが毎回イヤイヤプレーするので後ろからのキーパーの声も出ず、キャッチもはっきりできないので失点は仕方がない状況でした。また、他チームは専属 GK がいるので安定したディフェンスの戦術をもっていたので得点することにとても苦労しました。
- \*1対1で振り切られる場面が多々見られ、個人での戦いで負けていた時は大量失点を奪われていました。このような状況は相手の技術の高さやフィジカルの強さの差で、子どもたち個々に練習でレベルアップを図る必要があると感じました。
- \*試合では失点が多くなってくると下を向いて元気がなくなる子どもたちが多くなりその気持ちを盛り上げ、ミスを繰り返さないように私もきつく声を張り上げました。保護者の方々がホームグラウンドのように応援に来てくださり、ビデオ撮影が多い中、厳しい言葉が映像に残ってしまったことはお許しください (笑) 子どもたち成長を思っただけの声かけですのでご理解ください。
- \*毎年、素晴らしい天然芝で1会場に全てチームが集まって試合ができる環境は、福島県内では無く、波崎というサッカー合宿のメッカである地域で行きとどいた運営 (ライン引き、審判手配、水の支給など) のもと三日間を過ごせたことに感激しました。





・ 試合結果  
予選リーグ

Group A										
	a 上本郷	b ホレイロA	c FC Allez	d パツA	e Wings12	勝点	勝数	得失点差	得失点	得失点率
a 上本郷		A1 X 1-5	A1 X 1-3	A1 X 2-4	A1 X 1-3	0	5	15	-10	5
b ホレイロA	0 5-1		A4 X 5-2	A3 X 2-4	A3 0 4-2	9	16	9	7	2
c FC Allez	0 3-1	X 2-5		A2 X 1-6	A2 0 4-0	6	10	12	-2	3
d パツA	0 4-2	0 4-2	0 6-1		A5 2 0-0	12	16	5	11	1
e Wings12	3 3-1	X 2-4	0 0-4	X 0-2		3	5	11	-6	4

  

Group B										
	f WingsT	g パツB	h スポルトA	i ラルクW	勝点	勝数	得失点差	得失点	得失点率	
f WingsT		B1 0 4-0	B1 0 6-2	B1 0 6-0	7	16	2	14	1	
g パツB	X 0-2		B2 0 0-6	B2 0 0-8	0	0	18	-18	0	
h スポルトA	X 2-6	0 6-0		B2 1 1-4	3	9	7	0	-1	
i ラルクW	X 0-6	0 8-0	4 4-1		6	12	7	5	2	

  

Group C										
	j ラルクG	k スポルトB	l ホレイロB	m 花園	勝点	勝数	得失点差	得失点	得失点率	
j ラルクG		C1 0 1-1	C1 5 5-0	C1 0 2-1	9	17	2	15	1	
k スポルトB	X 1-1		C2 1 1-2	C2 0 0-3	0	2	15	-13	0	
l ホレイロB	0 0-5	2 2-1		C2 0 0-7	3	2	13	-11	3	
m 花園	X 1-2	3 3-0	7 7-0		6	10	2	8	2	

・ 順位決定戦（最終日）

VS ラルクベール W（千葉県） 0 : 7 完敗  
VS 花園（千葉県） 0 : 7 完敗

第7位 / 13 チーム中

・ フレンドリーマッチ

VS 花園 ●  
VS 上本郷（埼玉県） ●  
VS パサニオール B（千葉県） ○  
VS スポルト B（千葉県） ○  
VS パサニオール A ●

・ 試合数

第1日目～3試合、第2日目～5試合、第3日目～3試合 計11試合実施

○宿舎での子どもたちのことについて

- ・宿舎へは宿舎の貸切バスでの送迎を受け30分かけて帰り、まずは洗濯をしました。自分たちで着たユニフォームをアール専用の洗濯機2台を使い、2回に分けてやりました。食事が合わると部屋の前に作った物干しロープで干しました。いつも保護者にやってもらっていることをこの三日間は自分たちで行うことで成長してほしいと思いました。



- ・他チームをみると指導者と保護者の方々が多く泊まっている状況の中、アールは指導者のみで子どもたちと行動した三日間でしたので、自分たちのことは自分たちでやる生活を送りました。これも大いに成長してくれる機会だったと思います。リーダーシップをとってくれる子、後ろから消極的に着いてくる子など様々でしたが個性が出て参考になりました。
- ・食事の時間ですが、子どもたちの食べっぷりが気になりました。好きなものしか食べない子がほとんどで、せっかく作ってくれた料理を少し口をつけて残すことがあたりまえのような状況だったので、しっかりと食べさせることに努めました。「食育」は大事です。よく走り、元気で強いチームの子はバランスよく沢山ご飯を食べていました。サッカーだけうまくなくても栄養バランスが悪いと強い心身は作れず、試合中の頑張る所でも力を発揮できないことを伝えながら、頑張っって残さずに食べることを伝えました。しかし、個人差があるので食べられる子と食べられない子はいました。また、食後は自分たちで食器を厨房へ片付け、テーブルを拭くなどをするのも良い経験となりました。

食事についてですが前はこんなことがありました。

他チームがアールのごはん釜のごはんが欲しいと言ってもらいにきた場面がありました。自分たちの釜がなくなり、アールの子たちがおかわりをしない光景を見て余っていることで声をかけてきたようです。そのチームは元気な子たちでやはり強いチームでした。そんな光景をみてアールの卒団生ですが、遠征後に家に帰ってからしっかりと食事をするようになったと保護者が言っていたことを思い出しました。



・初日の夜はなかなか寝なかったのですが、二日目は早くから爆睡していました。二日目の五連戦は疲れたのでしょう。



- ・朝は公園を散歩してトリデに登る競争や、近くの海水浴場に行き朝の海岸を見捨いなどして楽しみました。我慢できずに海に入っていく子もいて靴は海水と砂まみれで朝食前の時間が無い中、必死に洗う光景が見られました（笑）。



○帰りの行程での子どもたちについて

- ・帰りのバスの中ですが、最終日は疲れなのか全く動きが悪い試合内容でしたので、ぐっすりと眠って帰るのかと思いきやはしゃぎながら帰る姿を見て子どもの疲れをしらない体力にびっくりでした（笑）



○保護者の方々への感謝について

- ・波崎は郡山から約5時間もかかりますが、泊まりで応援に来てくださった保護者の方々の応援はホームグラウンドのような雰囲気になり、子どもたちも緊張がほぐれて安定した気持ちでプレーできたようです。また、差し入れを毎日いただき試合の合間に冷たいアイスなどでリラックスができたことに感謝いたします。



- ・その他にもいろいろとありましたが、この辺で終わりにします。お子様からそれぞれ感想を聞かれたことと思いますが、今回いろんな刺激を受け、様々なことを感じたことですべて子どもたちの財産になるでしょう。高額な参加費でしたがお子様を参加させていただきました保護者の方々に感謝し、また、大会の主催者及び相手チーム方々に感謝して報告とさせていただきます。

○おまけ

- ・天気予報もはずれて、雨男の私が帯同したにもかかわらず天気が良かったので準備した雨合羽も最後のおみやげになっちゃいました(笑)
- ・毎晩、子どもたちが寝た後に熊坂コーチや小松コーチと2時間以上のスピーカーモードの電話での熱い会議は、子どもたちの様子や今後の指導などを話しあう機会でした。帯同していなくても他コーチたちはアーレの選手たちのことをいつも考えている素晴らしいコーチたちですね。(たまにはコーチたちを褒めておきます(笑))

コーチ：設楽